



腹痛、嘔吐など、体調を崩す子どもが見られます。手洗い・うがいを徹底させます。おうちでは、休養・食事についてよろしくお願ひします。

「あいさつ・そうじ、ボランティア」の “ボランティア”

～ボランティア委員会「募金活動」～



「あいさつ」、「そうじ」と2学期の重点の取り組みが見えてきて、ここに来て、ボランティア委員会が「赤い羽根共同募金」と「ユニセフ募金」を行ってくれました。

1学期の終わりに、高橋直哉先生が児童朝会で募金について教えてくださいました。

それは、「募金の時だけでなく、できるだけ長く募金について気にかけて暮らしてほしい」という願いから行われたものでした。あの学習を受けて一人でも、ずっと前からコツコツとお金を貯めてくれた子がいたらいいなあと思っています。また、今回配られたドラえもん募金箱（おうち用）も1年後の募金の日をめざしてまた使い始め子もいるそうです。そんな子が増えたらいいなあ願っている取り組みでもあります。

集まった額も大事ですが、そのような気持ちを育てる取り組みでもあります。

校報

水 緒

「知徳の方向 あやまらず 進め」

第 1380号
 (令和3年度 第15号)
 洋野町立種市小学校
 令和3年7月16日
 児童数 239名

学期末を迎えます。楽しい夏休みがきます。安全に気をつけて暮らさなければなりません。おうちでの声掛けをお願いします。

募金って？

どれだけの時間、心を動かし、 気にかけて暮らすことができるだろう

7月6日(火)に児童朝会が行われました。執行部から先月行われた「あいさつ運動」の取り組みについてのまとめのお話がありました。そのあと、『みなさんから、先生方から』何かありませんか」と司会が進行しました。これまでは「ありません。」の返事が聞こえるところ、今回は、高橋直哉先生がボランティアのお話をしてくれました。

種市小学校では、毎年、ボランティア委員会を中心に募金活動を行っています。「ユニセフ募金」と「赤い羽根共同募金」です。それらのお金がどのように使われるかを教えてくださいました。

- ユニセフ募金
 - ・100円で
 - ・ポリオの予防接種を子ども達に6回打つことができます。
 - ・5Lの水をきれいにできる薬を250錠買えます。
- 赤い羽根共同募金
 - ・町をよくするため（街灯をつけたり）に使われます
 - ・災害のときのボランティアセンターの運営に使われます

このようなことを教わった子ども達に期待したいことは・・・

それは、「世の中に困っている人がいる

「やっぱり、 みんなで集まって歌うっていいですね。」 「うん！ ホントだね!!」

1年半ぶりの音楽集会

「1年半ぶりの音楽朝会ですね。」小菅先生がおっしゃいました。コロナの影響でずっとできないままでした。今まで大事にしてきた音楽ですので、何とかできないものかと学年ごとに行ったり、放送で行ったりしたときもありました。そして、12月14日(火)、「短い時間なら」と全校が集まり、今月の歌「はじめの一步」を歌いました。寒い朝でしたので、ウォーミングアップに小菅先生が歌う動揺「もしもし かもよ」に合わせて隣の人の背中をこすりっこ。

「きゃーきゃー」盛り上がりつつあったあとに全校での歌。体を揺らしながら歌う低学年、きれいに響かせる高学年。マスクをしたままですが1年半ぶりの全校での音楽でした。とっても寒い朝なのですが、なんだか穏やかな空気だったことを子ども達も感じたことでしょう。小菅先生の「やっぱり、みんなで集まって歌うっていいですね。」の言葉



に、声では聞こえませんが「うん、ホントだね！」という子ども達の気持ちが空気のなかに広がったように感じました。

ここからまた、全校音楽がはじまればいいなあ願う「はじめの一步」の歌でした。

心配なこと

オンラインでの「知らない人とのやり取り」 「依存症」

ゲーム、SNSについて

12月13日（月）に、洋野町の情報モラル講演会があって、5年生・6年生がオンラインによる講演会に参加しました。講師の「未来の風 せいわ病院」の理事長：智田文徳先生のお話をお聞きし、種市小学校でも心配されることはないかと考えました。

オンライン

オンラインゲームでは、例えば、ゲームに知らない人が参加しています。子ども達の中では、友だちのことなら誰が参加しているかもわかっていることが多いようです。「〇〇ちゃん、タベ、△△のゲームしてたよね。」という会話が聞かれます。また、音声で会話ができる場合や文字で会話ができる場合もあるようです。

そうすると、心配されるのは、見知らぬ人との通信です。子ども達に伝えることははばかられますが、事実として、“悪意”をもって参加している人もいます。低学年の子がやるような楽しいゲームだといって無防備に安心してはられないと考えます。

依存症

もしも、「明日からしばらく、ゲームは禁止」とおうちの方が言ったら、子ども達はどうか反応するでしょうか。しぶしぶでも言うことを聞くようであればよいのですが、「どうして!?!」とか「納得いかない!」とか声を荒げるようなことにはならないでしょうか。確かに、「相手が子どもであっても一方的に言うのはよくない」かもしれませんが、この場合、子どもが簡単に言うことを聞かないのが「ゲームのことだから我慢できない」というのなら心配ではないでしょうか。

智田先生は、「脳科学的には自分をコントロールする力は20才くらいまでかかって完成するものなので、依存性が高いものは、特に小中学生の間は控えてほしい」という意味のお話をされています。

加えて、心配なこと年齢制限

昨年度は、子ども達が年齢制限を超えるゲームを使っていることが分かり、校報や面談でもおうちの方々に注意いただくようお願いしました。時間が経ったからか、また、使っている子が見られるようになっていきます。昨年もお伝えしたのですが、…。

◆新CEROレーティングマーク



◆旧CEROレーティングマーク



年齢制限は世界中で行われている制度（レーティング制度）で、日本では「CERO（特定非営利活動法人）」が国内のゲームソフトについて審査しています。ゲームに左のような表示があるそうです。

「乱暴な言葉を使うなあ。」とか「イライラを抑えられないときがある。」と思うことはないでしょうか。そのような影響を考えて、CEROの審査は、「暴力」「性的な表現」「犯罪」「言葉づかい」「思想」などの視点で行われています。

実際に使っているもの、今度買ってほしいと言われているものも、この表示を見て考えていただければと思います。世界では、罰則がある国もありますが、日本はありません。それでも、「よくないというものを預ける」ことは子どものためになるのか考えなければならぬと思います。「大人と一緒にやっているからいいのでは？」は、他の年齢制限があるものと考えれば、やはりよいわけはないと考えます。「友達も持っている」とせがまれても、「ダメなものはダメ」と毅然と話したいです。また、この“制限があること”は子どもを納得させる材料にもなる

かと思えます。耳障りなこととは思いますが、子どものことが心配でお伝えしています。クリスマス、正月と続く季節です。我々大人で子ども達のことを考えていきたいと思えます。学校、家庭が一緒になって考え、そして、“サンタさん”にも、慎重に考えていただきたいと考えています。

アニメなどのキャラクターやCMで流れていて見慣れているものが印刷されていても、品物によっては制限があるものもあります。ぜひ、慎重に見ていきたいです。

子どもにとって、スマホなどの機器は憧れです。でも、便利ではありますが、「何に使うのか」が大事だと考えます。「おもちゃ」のような使い方になってはゲームと同じ心配が出てきます。また、「持たせたあとも当初の目的に合った使い方になっているか」も時折確かめていきたいものです。